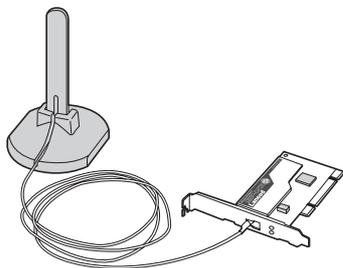


Wireless PC Card

54M/11Mbps 無線LANイーサネットPCIボード

LD-WL5411/PCI



必ずお読みください	P1~11
取り付ける	P12~14
Windows XPへのドライバインストール	P16~18
Windows Meへのドライバインストール	P19~21
Windows 98へのドライバインストール	P22~25
Windows 2000へのドライバインストール	P26~29
無線LANの基本設定	P32~43
設定ユーティリティのリファレンス	P44~55
OSごとのネットワーク設定例	P58~71
必要に応じてお読みください	P73~79

User's Manual

54M/11Mbps
無線LANイーサネットPCIボード

LD-WL5411/PCI

User's Manual
ユーザーズマニュアル

■ はじめに ■

この度は、弊社ラニードの54M/11Mbps無線LANイーサネットPCIボード"LD-WL5411/PCI"をお買い上げいただき誠にありがとうございます。このマニュアルには、"LD-WL5411/PCI"をコンピュータに導入するにあたっての手順が説明されています。また、お客様が"LD-WL5411/PCI"を安全に扱っていただくための注意事項が記載されています。導入作業を始める前に、必ずこのマニュアルをお読みになり、安全に導入作業をおこなって製品を使用するようにしてください。なお、このマニュアルでは一部の表記を除いて"LD-WL5411/PCI"を「本製品」と表記しています。

このマニュアルは、製品の導入後も大切に保管しておいてください。

ご注意

- 本製品の仕様および価格は、製品の改良等により予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの著作権は、エレコム株式会社が所有しています。
- このマニュアルの内容の一部または全部を無断で複製/転載することを禁止させていただきます。
- このマニュアルの内容に関しては、製品の改良のため予告なしに変更する場合があります。
- このマニュアルの内容に関しましては、万全を期しておりますが、万一ご不審な点がございましたら、弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。
- 本製品のうち、戦略物資または役務に該当するものの輸出にあたっては、外国為替法に基づく輸出または役務取引許可が必要です。
- 本製品は日本国内での使用を前提に製造されています。日本国外での使用による結果について弊社は一切の責任を負いません。また、本製品について海外での保守、サポートはおこなっておりません。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。そのほか、このマニュアルに掲載されている商品名/社名などは、一般に各社の商標ならびに登録商標です。本文中における®および™は省略させていただきました。

●このマニュアルで使われている記号

記号	意味
	作業上および操作上で特に注意していただきたいことを説明しています。この注意事項を守らないと、けがや故障、火災などの原因になることがあります。注意してください。
	説明の補足事項や知っておくと便利なことを説明しています。
	キーボード上のキーを表わします。

安全にお使いいただくために

Laneed

けがや故障、火災などを防ぐために、ここで説明している注意事項を必ずお読みください。

 警告	この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などによる死亡や大けがなど人身事故の原因になります。
 注意	この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり、他の機器に損害を与えたりすることがあります。

 **警告**

 本製品の取り付け、取りはずしのときは、必ずコンピュータ本体と周辺機器の電源を切り、電源プラグをACコンセントから抜いてからおこなってください。

電源プラグを抜かずに作業をすると火災や感電、故障の原因になります。

 小さな子供のいるそばで、取り付け取りはずしの作業をおこなわないでください。また、子供のそばに工具や部品を置かないようにしてください。けがや感電をしたり、部品を飲み込んだりする危険性があります。

 本製品の取り付け、取りはずしのときは、必ずコンピュータ本体および周辺機器メーカーの注意事項に従ってください。

 本製品の分解、改造、修理をご自分でおこなわないでください。火災や感電、故障の原因になります。また、故障時の保証の対象外となります。

 本製品を取り付けたコンピュータ本体から煙やへんな臭いがしたときは、直ちに電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。

そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

 本製品を取り付けたコンピュータ本体に、水などの液体や異物が入った場合は、直ちに電源を切り、ACコンセントから電源プラグを抜いてください。そのあと、ご購入店などにご連絡ください。

そのまま使用すると、火災や感電、故障の原因になります。

 本製品および本製品を取り付けたコンピュータ本体を、水を使う場所や湿気の多いところで使用しないでください。

火災や感電、故障の原因になります。

 **注意**

 コンピュータ本体のカバーや本製品の取り付け、取りはずしのときは慎重に作業をおこなってください。

強引な着脱は、機器の故障や、けがの原因になります。

 本製品の取り付け、取りはずしのときは、本製品に触れる前に金属性のもの(スチールデスク、ドアのノブなど)に手を触れて、静電気を除去してから作業をおこなってください。

静電気は本製品の破損の原因になります。

 本製品および本製品を取り付けたコンピュータ本体を次のようなところで使用しないでください。

- ・高温または多湿なところ、結露を起こすようなところ
- ・直射日光のあたるところ
- ・平坦でないところ、土台が安定していないところ、振動の発生するところ
- ・静電気の発生するところ、火気の周辺

 長期間、本製品を取り付けたコンピュータ本体を使用しないときは、電源プラグを抜いておいてください。

はじめに 1
 安全にお使いいただくために 2
 もくじ 4

Chapter 1 概要編

1. 本製品の導入手順 6
 2. パッケージの内容を確認する 7
 3. 製品の保証とユーザ登録 8
 4. 本製品の概要について 9
 本製品の特長 9
 本製品の動作環境 10
 各部の名称とはたらき 11
 5. 本製品を取り付ける 12

Chapter 2 ドライバインストール編

1. Windows XPへのインストール 16
 2. Windows Meへのインストール 19
 3. Windows 98へのインストール 22
 4. Windows 2000へのインストール 26

Chapter 3 無線LAN接続編

1. 設定ユーティリティを
 インストールする 32
 2. 無線LANに接続する 35
 Windows XPの標準機能を
 オフにする 36
 APステルス機能と
 アドホック・モードの事前設定 38
 無線LANに接続する 40
 簡易ステータスについて 43

3. 設定ユーティリティのリファレンス 44
 設定 タブ 44
 ワイヤレスネットワークの
 プロパティ 46
 ステータス タブ 47
 オプション タブ 48
 情報 タブ 50
 4. WEPを設定する 51
 WEPの設定手順 53

Chapter 4 付録編

1. OSごとのネットワークの設定例 58
 Windows XPでの
 ネットワーク設定 58
 Windows Me/98での
 ネットワーク設定 63
 Windows 2000での
 ネットワーク設定 67
 2. こんなときは 73
 3. サポートサービスについて 77
 4. 基本仕様 79

Topics 無線LANの基礎知識

その① 無線LANの2つの通信モード 30
 その② 無線LANのセキュリティ機能 56
 その③ IPアドレスについて 72

Chapter 1

概要編

本製品の概要および接続の方法について説明します。

1. 本製品の導入手順 6
 2. パッケージの内容を確認する 7
 3. 製品の保証とユーザ登録 8
 4. 本製品の概要について 9
 5. 本製品を取り付ける 12

1 本製品の導入手順

Laneed

Windows XPの場合

その他のOSの場合

パッケージの内容を確認します。➔P7

作業の前に注意事項をお読みください。➔P2

本製品をPCIバスに取り付けます。➔P12

Windowsを起動します。

本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブにセットし、メッセージに従いドライバをインストールします。

- ・ Windows XPの場合 ➔P16
- ・ Windows Meの場合 ➔P19
- ・ Windows 98の場合 ➔P22
- ・ Windows 2000の場合 ➔P26

※Windows 98の場合、Windows 98 CD-ROMが必要ながあります。

無線LANのユーティリティをインストールします。➔P32

Windows XP標準のワイヤレス ネットワーク接続を無効にします。➔P36

アドホック・モードの場合は、あらかじめ1台にESS IDと通信モードを設定します。
➔P38

無線LANを使って接続してみます。➔P40
正常に接続できれば、すべての無線LANアダプタを接続できるかチェックします。

必要に応じてESS IDの変更、WEPの設定やその他のオプション機能を設定します。
WEPの設定 ➔P51 その他の設定 ➔P44

ご使用の環境に合わせて、サービス、プロトコルなどのネットワーク設定をおこないます。➔P58

※この内容は設定例です。実際にご使用になるネットワーク環境に合わせて設定してください。

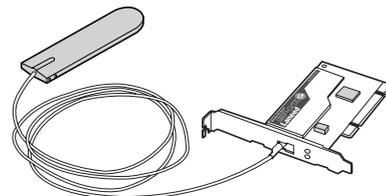
導入後は、ユーザ登録(➔P8)をおこなってください。

2 パッケージの内容を確認する

Laneed

本製品のパッケージには次のものが入っています。作業を始める前に、すべての商品が揃っているか確かめてください。なお、梱包には万全を期しておりますが、万一不足品、破損品などがありましたら、すぐにお買い上げの販売店または弊社ラニード・サポートセンターまでご連絡ください。

- 54M/11Mbps 無線LANイーサネットPCIボード LD-WL5411/PCI (1台)



- アンテナスタンド (1台)



- CD-ROMディスク (ドライバほか 1枚)



- ユーザズマニュアル (1冊)
(このマニュアルです)



- 保証書 1枚



3 製品の保証とユーザ登録

Laneed

製品の保証とサービス

本製品には保証書が付いています。内容をお確かめの上、大切に保管してください。

●保証期間

保証期間はお買い上げの日より1年間です。保証期間を過ぎての修理は有料になります。詳細については保証書をご覧ください。保証期間中のサービスについてのご相談は、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

●保証範囲

次のような場合は、弊社は保証の責任を負いかねますので、ご注意ください。

- ・ 弊社の責任によらない製品の破損、または改造による故障
- ・ 本製品をお使いになって生じたデータの消失、または破損
- ・ 本製品をお使いになって生じたいかなる結果および、直接的、間接的なシステム、機器およびその他の異常

●修理の依頼

P77「修理の依頼」をお読みください。

●その他のご質問などに関して

P77「3.サポートサービスについて」をお読みください。

ユーザ登録

製品の導入が完了したらユーザ登録をおこなってください。お客様のユーザ登録は、インターネットから登録することができます。

●オンラインでの登録

弊社ホームページから登録が可能です。トップページ左にある「ユーザ登録」からアクセスしてください。

ホームページアドレス：<http://www.elecom.co.jp>

4 本製品の概要について

Laneed

本製品の特長

●54Mbps無線LAN&11Mbps無線LANシステム対応のデュアルバンドタイプ

IEEE802.11a準拠、周囲との混信の少ない5.2GHz帯の周波数を使用し、通信速度が高速54Mbpsの無線LANシステムに対応。さらに従来のIEEE802.11bの11Mbps無線LANシステムでも利用できるデュアルバンドタイプの無線LAN PCIボードです。

●PCIバス対応で54Mbpsのパフォーマンスをフルに発揮

本製品はデスクトップマシンなどのPCIバスに対応しています。バス幅の広いPCIバス対応なので54Mbpsという高速無線LAN通信のパフォーマンスを十分に発揮することができます。通信モードは、無線LANアダプタ同士で通信するアドホック・モードと、アクセスポイントや無線ルータを使用するインフラストラクチャ・モードに対応します。

●伝送方式にOFDM方式を採用

OFDM(Orthogonal Frequency Division Multiplexing =直交周波数分割多重)方式は、複数のサブキャリアにデジタル変調したデータを多重化して送信するマルチキャリア伝送方式です。シングルキャリア伝送方式で問題になる周波数選択性フェージングによって引き起こされる伝送特性の劣化を軽減することができます。OFDMは地上波デジタル放送でも使用されている最新技術です。

●WEPによるセキュリティに対応

特定のグループを設定するESS ID機能をはじめ、アクセスポイントを使用する場合は、登録されたMACアドレスを持つ無線LANカードとだけ通信することができる「MACアドレスフィルタリング」にも対応します。さらに、データそのものを暗号化するWEPを利用することで、第三者に盗聴されてもそのままではデータを見ることができないようにすることが可能です。WEPは64ビットと128ビットに対応します。

●使いやすいオリジナル設定ユーティリティ

設定ユーティリティは、Windows XP標準のワイヤレスネットワーク接続の近いイメージで、どなたでも容易に使いこなせるようになっています。

●プラグ&プレイでインストールも簡単

本製品を接続後、コンピュータ本体の電源を入れると、自動的にドライバインストールのウィザードが起動します。メッセージに従って進めばどなたでも簡単にインストールできます。

※Windows 98ではOSのCD-ROMが必要なことがあります。

本製品の動作環境

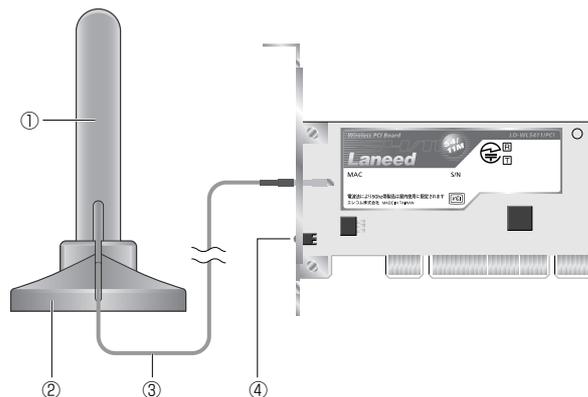
本製品は次の動作環境に対応しています。

規 格	5.2GHz帯(最大54Mbps) :
	IEEE802.11aに対応した無線LANシステム
2.4GHz帯(最大11Mbps) :	IEEE802.11bに対応した無線LANシステム
	※動作保証は弊社製品での組み合わせになります。
対応機種	PC/AT互換機(DOS/Vマシン)およびNEC PC98-NXシリーズでPCIバスの空きスロットを持つ機種(自作機は除く)
対応OS	Windows XP, Windows Me, Windows 98, Windows 2000

※最新の動作環境は弊社ホームページ(<http://www.elecom.co.jp>)をご覧ください。

各部の名称とはたらき

アンテナケーブルは、アンテナ本体およびPCIボードのどちらからも取り外すことができませんのでご注意ください。アンテナケーブルに無理な力を加えると断線などの恐れがあります。



①	アンテナ本体	電波を送受信するアンテナ部分です。	
②	アンテナスタンド	アンテナを立てるためのスタンドです。90°の範囲で角度を調整することができます。出荷時はアンテナ本体とは別になっていますので、次ページの「5.本製品を取り付ける」をお読みになり、アンテナを正しくセットしてください。	
③	アンテナケーブル	PCIボードとアンテナ本体をつなぐケーブルです。アンテナ本体、PCIボードのどちらからも取り外すことはできません。無理な力で引っ張らないようにしてください。	
④	LEDランプ	ACTIVITY	データの送受信中に緑色に点滅します。
		POWER	本製品に電源が供給されているときに緑色に点灯します。

5 本製品を取り付ける

Laneed

本製品はコンピュータ本体のPCIバスに取り付けます。PCIボードとアンテナはケーブルでつながれているため外すことはできません。必ずこの説明をお読みになり正しく取り付けてください。

また、コンピュータ本体の種類によって、カバーの開けかたやPCIバスへのボードの取り付けかたが異なります。ご使用になるコンピュータ本体のマニュアルにあるPCIバス用ボードの取り付け方法の説明も参考にしてください。



作業を始める前に、コンピュータ本体および周辺機器の電源プラグをACコンセントから必ず抜いてください。電源プラグを差し込んだままにしておくと、感電の原因になります。



コンピュータ本体の電源スイッチを切っただけでは、回路上に微電流が流れていることがあります。そのため、正常に本製品を認識できなかったり、取り付け時に本製品がコンピュータ本体の回路に触れてショートし、破損する恐れがあります。必ず電源プラグをACコンセントから抜いてください。



必ずコンピュータ本体のマニュアルも併せて読みながら、取り付けてください。



本製品の取り付けを始める前に、必ず金属に触れて身体の静電気を取り除いてください。

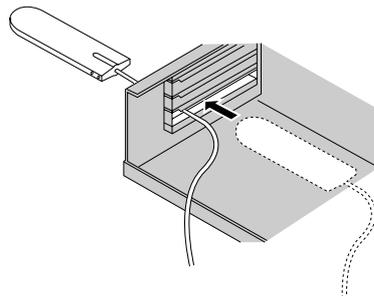
1 コンピュータ本体の電源を切った状態で、電源プラグをACコンセントから抜きます。

2 コンピュータ本体のカバーをはずします。はずし方についてはコンピュータ本体のマニュアルを参照してください。

3 本製品を取り付けるPCIバススロットを決め、そのスロットのカバーをはずします。

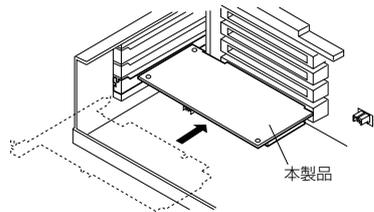
・スロットカバーは通常ネジ止めされています。

4 カバーを外したスロットの内側から外側へ向けてアンテナ本体を通します。



・この時点では、まだアンテナ本体にアンテナ台を取り付けないでください。

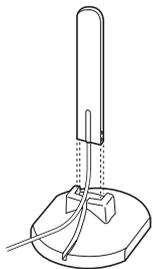
5 アンテナケーブルをスロットの外側へ送り、スロットに本製品のPCIボード本体をしっかりと差し込みます。このとき、アンテナケーブルをはさまないように注意してください。



・ゆがみがないように、ゆっくりとスロットの奥まで均一に差し込みます。

6 手順 **3** でははずしたネジでPCIボード本体を固定します。

- 7** 本製品に付属しているアンテナ台にアンテナ本体を固定します。



- ・少し斜めにアンテナ本体を差し込み、アンテナ本体の突起とアンテナ台のくぼみが合うようにはめ込みます。

- 8** このあとは、ご使用のOSに合わせてドライバをインストールします。

Windows XP ➡ P16へ Windows Me ➡ P19へ
Windows 98 ➡ P22へ Windows 2000 ➡ P26へ

Chapter 2

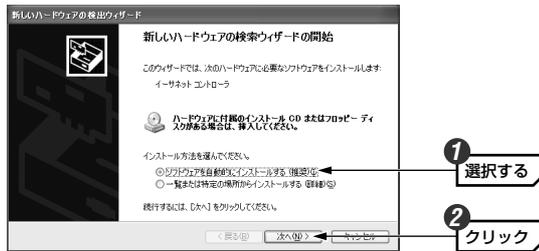
ドライバインストール編

本製品のドライバをインストールします。OSごとに手順が異なりますので、ご使用になるOSの説明ページをお読みください。

1. Windows XPへのインストール …… 16
2. Windows Meへのインストール …… 19
3. Windows 98へのインストール …… 22
4. Windows 2000へのインストール …… 26

1 Windows XPへのインストール

- 1 コンピュータ本体の電源を入れて、Windows XPを起動します。
- 2 付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。
- 3 「ソフトウェアを自動的にインストールする」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



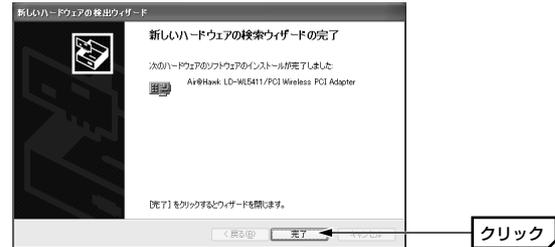
MEMO ご使用の環境によっては、CD-ROMディスクをドライブに入れると自動的に手順 4 の画面に進む場合があります。

- 4 以下のような画面が表示された場合は、「続行」ボタンをクリックします。ドライバのインストールが開始します。



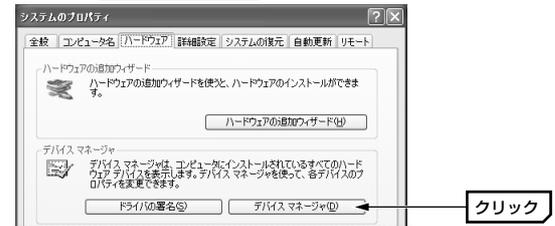
・このドライバについては、弊社にてWindows XP上で正常に動作することを検証しております。

- 5 しばらくすると、インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されますので、「完了」ボタンをクリックします。

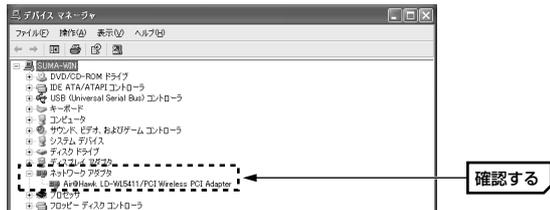


- 6 次の手順でデバイスマネージャを表示します。

- ① [スタート]ボタンをクリックします。
- ② [マイコンピュータ]を右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。
- ③ <システムのプロパティ>画面が表示されます。【ハードウェア】タブを選択し、「デバイスマネージャ」ボタンをクリックします。



- 7 「ネットワークアダプタ」の **+** をクリックし、「Air@Hawk LD-WL5411/PCI Wireless PCI Adapter」が表示されることを確認します。



・他の名称が表示されたり×マークや!マークが付いているときは正常にインストールが完了していません。P73「2.こんなときは」をお読みください。

これでWindows XPへのドライバのインストールは完了です。このあとはP32「1.設定ユーティリティをインストールする」へ進んでください。

2 Windows Meへのインストール

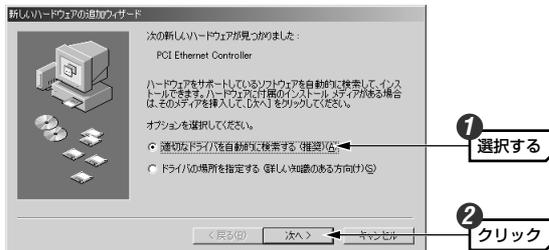
Lanedit

- 1 コンピュータ本体の電源を入れて、Windows Meを起動します。

・新しいハードウェアの追加ウィザードが表示されます。

- 2 本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。

- 3 「適切なドライバを自動的に検索する」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



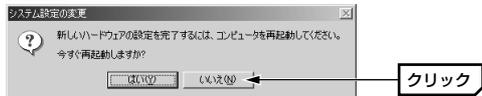
・インストールを自動的に開始します。

MEMO ご使用の環境によっては、CD-ROMディスクをドライブに入れると自動的に手順 4 の画面に進む場合があります。

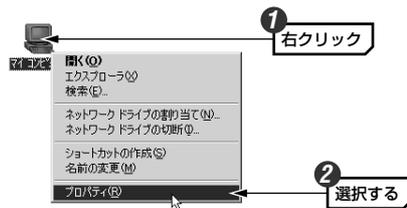
- 4** インストールが完了したことを知らせるメッセージが表示されますので、**完了** ボタンをクリックします。



- 5** コンピュータを再起動するようにメッセージが表示されます。ここでは、**いいえ** ボタンをクリックします。



- 6** デスクトップ画面の[マイコンピュータ]アイコンを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。



- 7** <システムのプロパティ> 画面が表示されます。【デバイスマネージャ】タブにある「ネットワークアダプタ」の **+** をクリックし、「Air@Hawk LD-WL5411/PCI Wireless PCI Adapter」が表示されることを確認します。



・本製品が見あたらなかったり、×マークや！マークが付いているときは正常にインストールが完了していません。P73「2.こんなときは」をお読みください。

MEMO ネットワークアダプタに「ダイヤルアップアダプタ」が表示されている場合がありますが、これはアナログモデム/T/A用でLANアダプタとは関係ありません。

これでWindows Meへのドライバのインストールは完了です。このあとはP32「1.設定ユーティリティをインストールする」へ進んでください。

MEMO 再起動すると、ネットワークへのログオン画面が表示されます。[ユーザー名]は必ず入力します。必要であれば[パスワード]を入力します。初めて入力した文字が今後のパスワードになりますので絶対に忘れないようにしてください。今後はWindowsを起動するたびに、今回入力したパスワードを入力してください。

3 Windows 98へのインストール

Laneed

1 コンピュータ本体の電源を入れて、Windows 98を起動します。

2 しばらくすると、ドライバを検索する画面が表示されますので、**次へ** ボタンをクリックします。



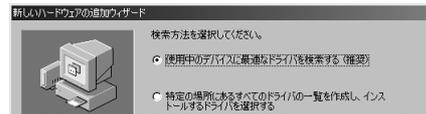
MEMO Windows 98でコンピュータ名、ワークグループ名の入力を促されたとき
※Windows 98 Second Editionでは表示されません。

- ① [コンピュータ名]の入力を促すメッセージが表示されますので **OK** ボタンをクリックします。
- ② 【識別情報】タブで[コンピュータ名]と[ワークグループ名]を入力してください。入力が終われば **OK** ボタンをクリックします。



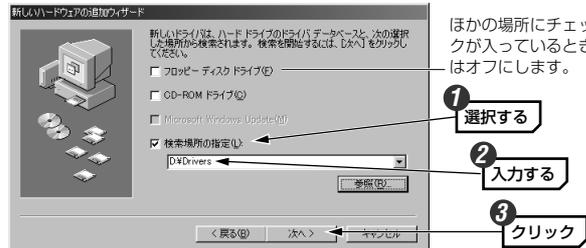
コンピュータ名	インストール中のコンピュータに与える名称を設定します。一般的には、個人単位で使うコンピュータならユーザの名前、部署単位で使うコンピュータなら部署名などを入力します。
ワークグループ	インストール中のコンピュータが接続されるネットワークのグループ名をつけます。同一ネットワーク上のコンピュータのワークグループ名はすべて同じにする必要があります。

3 「使用中のデバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、**次へ** ボタンをクリックします。



4 本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。

5 「検索場所の指定」を選択したあと、CD-ROMディスクを入れたドライブの「drivers」フォルダを指定し、**次へ** ボタンをクリックします。

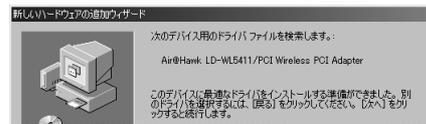


(例)CD-ROMドライブがDドライブの場合(小文字でも可)

D: ¥DRIVERS

・ **参照** ボタンをクリックして <フォルダの参照> 画面から選択することもできます。

6 ドライバ名と場所が表示されますので、**次へ** ボタンをクリックします。

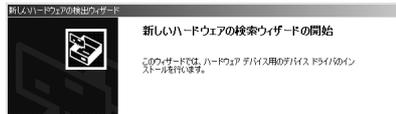


4 Windows 2000へのインストール

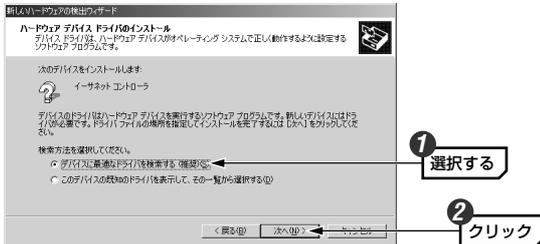
1 コンピュータ本体の電源を入れて、Windows 2000を起動します。

・このときAdministrator権限でログインします。

2 しばらくすると、新しいハードウェアを見つけたことを知らせるメッセージが表示されますので、「次へ」ボタンをクリックします。



3 「デバイスに最適なドライバを検索する」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



4 本製品に付属のCD-ROMディスクをドライブに入れます。

5 「検索場所のオプション」で「CD-ROMドライブ」を選択し、「次へ」ボタンをクリックします。



6 見つかったドライバ名に「drivers\w154pci.inf」と表示されていれば、「次へ」ボタンをクリックします。



- 7** 「デジタル署名が見つかりませんでした」と表示されます。**[はい]** ボタンをクリックし、インストールを続行します。



このドライバについては、弊社にてWindows 2000上で正常に動作することを確認しております。

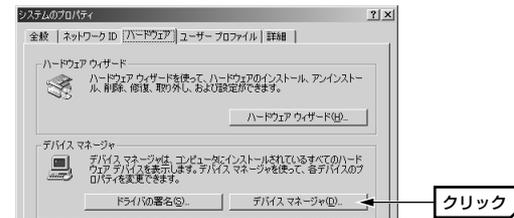
- 8** 「新しいハードウェアの検索ウィザードの完了」と表示されますので、**[完了]** ボタンをクリックします。



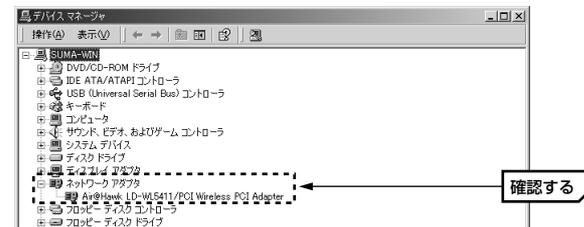
- 9** 次の手順でデバイスマネージャを表示します。

- ① [スタート] ボタンをクリックします。
 - ② [マイコンピュータ] を右クリックし、メニューから [プロパティ] を選択します。
- (次ページへ続く)

- ③ <システムのプロパティ> 画面が表示されます。【ハードウェア】タブを選択し、**[デバイスマネージャ]** ボタンをクリックします。



- 10** 「ネットワークアダプタ」の **[+]** をクリックし、「Air@Hawk LD-WL5411/PCI Wireless PCI Adapter」が表示されることを確認します。



これでWindows 2000へのドライバのインストールは完了です。このあとにはP32「1.設定ユーティリティをインストールする」へ進んでください。

Topics 無線LANの基礎知識 その①

無線LANの2つの通信モード

無線LANには2つの通信モードがあります。ひとつは、無線LANアダプタだけでネットワークを構成する「アドホック・モード」です。無線LANアダプタを取り付けたパソコン同士が直接電波をやり取りしてデータを交換できます。もうひとつのモードは、「アクセスポイント」と呼ばれる中継装置を使ってデータをやり取りする「インフラストラクチャ・モード」です。

●アドホック・モード(AdHoc Mode)

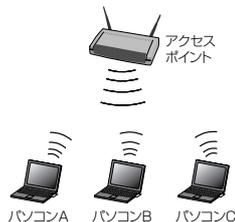
パソコン同士が直接電波をやり取りします。ノートパソコン数台だけでデータのやり取りをするのに適しています。各パソコンは対等の扱いになるピア・ツー・ピア接続になります。



●インフラストラクチャ・モード(Infrastructure Mode)

アクセスポイントを経由してパソコン同士を接続します。アクセスポイントにあるLANポートを使うことで有線LANと接続することができます。有線LAN上にルータがある場合は、アクセスポイントを経由して無線LANの各パソコンからもインターネットに接続できます。

また、弊社のアクセスポイントの場合、複数のアクセスポイントを設置することで、通信エリアを拡大できるだけでなく、ネットワークに接続したまま移動したときに、自動的に電波状態のよいアクセスポイントに切り替わるマルチチャンネル・ローミング機能が利用できます。



→その②はP56へ →その③はP72へ

Chapter 3

無線LAN接続編

ドライバのインストールが終われば、設定ユーティリティをインストールし、無線LANに接続できるように設定します。接続を確認できれば必要に応じてESS IDやWEPなどのオプションを設定してください。

1. 設定ユーティリティをインストールする ……32
2. 無線LANに接続する ……35
3. 設定ユーティリティのリファレンス ……44
4. WEPを設定する ……51

1 設定ユーティリティをインストールする

無線LANの設定に必要な設定ユーティリティのインストール方法を説明します。説明の画面にはWindows XPを使用していますが、他のOSでも手順は同じです。



Windows XPをご利用の場合

Windows XPでは無線LAN設定を付属の設定ユーティリティではなく、Windows XP標準のワイヤレス設定でおこないます。ただし、設定ユーティリティのモニター機能を使用しますので、必ず設定ユーティリティをインストールしてください。

1 付属のCD-ROMディスクがドライブに入っていることを確認します。

- 入っていない場合は付属のCD-ROMディスクをドライブに入れてください。

2 マイコンピュータなどを使ってCD-ROMディスクの内容を表示し、setup.exeをダブルクリックします。



- インストーラが起動します。

3 「ウィザードへようこそ」と表示されますので、「次へ」ボタンをクリックします。



4 <ユーザ情報>画面が表示されます。「会社名」には必ず何らかの文字を入力します。設定が終われば「次へ」ボタンをクリックします。

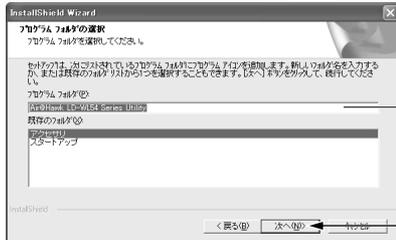


- 個人使用の場合は「会社名」に「HOME」など適当な文字を入力してください。
- その他の項目は必要に応じて変更します。わからない場合は、そのまま変更せずに次へ進んでください。

5 <インストール先の選択>画面が表示されます。通常は変更する必要はありませんので、そのまま「次へ」ボタンをクリックします。



- 6** <プログラム フォルダの選択> 画面が表示されます。通常はそのまま変更する必要はありませんので、そのまま **次へ** ボタンをクリックします。



フォルダ名を変更
したい場合は、
ここにフォルダ名を
入力します。

クリック

- 7** <InstallShieldウィザードの完了> 画面が表示されます。そのまま **完了** ボタンをクリックします。



クリック

コンピュータが再起動すると設定ユーティリティが表示されます。これでインストールは完了です。ドライブからCD-ROMを取り出し、大切に保管してください。このあとは、次の「2.無線LANに接続する」へ進みます。

MEMO アンインストールするときは

[スタート]→[(すべての)プログラム]→[Air@Hawk LD-WL54 Series Utility]にあるアンインストールプログラムを実行してアンインストールします。

2 無線LANに接続する

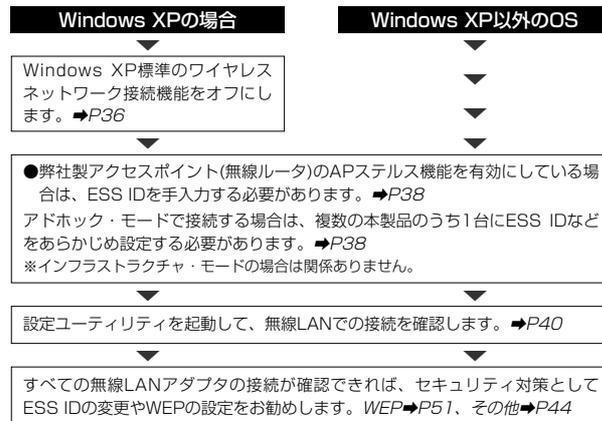
Lanedit

無線LANが使用できるように設定します。無線LANには2つの通信モードがありますので、どちらを利用するか確認してください。また、Windows XPとそれ以外のOSで設定方法が異なりますので、ご使用のOSに合わせてこのあとの説明をお読みください。

●無線LANの通信モード

<p>インフラストラクチャ・モード</p>	<p>無線LANのアクセスポイントまたは無線ルータを経由してデータのやり取りをします。本製品を接続する前に、ESS IDの設定を完了しておいてください。</p> <p>●弊社のAPステルス機能を有効にしている場合 弊社製アクセスポイント(無線ルータ)のAPステルス機能を有効にしている場合は、本製品側のESS IDを手入力する必要があります。</p>
<p>アドホック・モード</p>	<p>アクセスポイント等を使用せず、無線LANアダプタを取り付けたパソコン同士が直接データのやり取りをします。使用する無線LANアダプタの1台に事前の設定が必要です。</p>

●無線LANで接続するための操作の流れ



Windows XPの標準機能をオフにする

ご使用のOSがWindows XPの場合は、OS標準のワイヤレスネットワーク機能をオフにする必要があります。次の手順でオフにしてください。

Windows XP以外のOSではこの作業は必要ありません。

- 1 デスクトップ画面の右下のタスクトレイにある[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンをクリックします。まだ無線LANに接続できていない場合は×マークが付いています。



- 2 使用している環境によって、**A** または **B** の画面が表示されますので、それぞれの説明をお読みください。

A ワイヤレスネットワークへの接続画面が表示された場合



- ① **詳細設定** ボタンをクリックします。
- ② <ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ> 画面が表示されます。

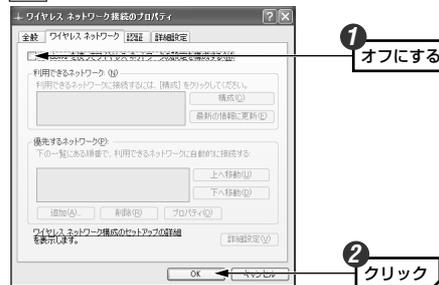
B ワイヤレスネットワーク接続の状態画面が表示された場合



- ① **プロパティ** ボタンをクリックします。
- ② <ワイヤレスネットワーク接続のプロパティ> 画面が表示されますので、【ワイヤレスネットワーク】タブを選択します。

- 3 「Windowsを使ってワイヤレスネットワークの設定を構成する」をオフにし、

OK ボタンをクリックします。



- 4 これで機能はオフになりました。アドホック・モードでご使用の場合は、次ページ「アドホック・モードの事前設定」へ進みます。インフラストラクチャ・モードの場合はP40「無線LANに接続する」へ進みます。

APステルス機能とアドホック・モードの事前設定

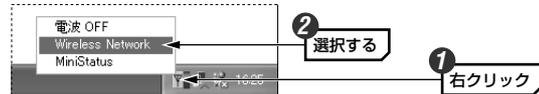
弊社製アクセスポイント(無線ルータ)のAPステルス機能を有効にしている場合は、ESS IDを手入力しておく必要があります。また、本製品を使ってアドホック・モードで新しく無線LANのネットワークを構築する場合は、用意した複数の本製品のうちの1台は、あらかじめ無線LANグループ(ESS ID)の設定をしておく必要があります。

※すべての本製品に、あらかじめこの設定をしてもかまいません。

MEMO 本製品を11Mbps(IEEE802.11b)のアドホック・モードで使用するとき手順 **5** でメイン画面に戻ったときに【オプション】タブの「詳細設定」にある「コンピュータ相互…」の項目で「IEEE802.11b(2.4GHz)」を選択してください。詳しくはP48「オプションタブ」の説明をお読みください。

1 [スタート]ボタン→[プログラム]→[Air@Hawk LD-WL54 Series Utility] →[WLANmon]を選択します。

2 タスクトレイに設定ユーティリティのアイコンが表示されます。このアイコンを右クリックし、メニューの「Wireless Network」を選択します。



3 メイン画面が表示されます。[優先するネットワーク]にある **追加** ボタンをクリックします。



4 <ワイヤレスネットワークのプロパティ> 画面が表示されますので、必要な設定をおこないます。



- ① 「ネットワーク名(SSID)」にESS IDを入力します。
 - ・ESS IDについては、P56「ESS ID」をお読みください。
 - ・ESS IDは半角英数字32文字以内で設定します。大文字と小文字が区別されますので注意してください。
- ② アドホック・モードでの接続の場合は、「これは、コンピュータ相互(ad hoc)のネットワークで、…」をオンにします。APステルス機能を利用している場合は、オフのまま変更する必要はありません。
- ③ **OK** ボタンをクリックします。



! WEPは無線LANの接続が確認できてから設定します。ここでは設定しないでください。

5 メイン画面(手順 **3** の画面)に戻りますので、**OK** ボタンをクリックします。

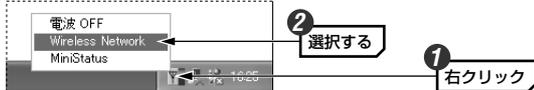
これで設定は完了です。次の「無線LANに接続する」に進みます。

無線LANに接続する

1 インフラストラクチャ・モードの場合はアクセスポイント(無線ルータ)を起動しておきます。アドホック・モードの場合は、P38「アドホック・モードの事前設定」で設定済みの1台を起動しておきます。

2 [スタート]ボタン→[プログラム]→[Air@Hawk LD-WL54 Series Utility] →[WLANmon]を選択します。

3 タスクトレイに設定ユーティリティのアイコンが表示されます。このアイコンを右クリックし、メニューの「Wireless Network」を選択します。



4 「利用出来るネットワーク」に接続可能な無線LANグループのESS IDが表示されますので、接続する無線LANグループのESS IDを選択し、「構成」ボタンをクリックします。



5 <ワイヤレスネットワークのプロパティ> 画面が表示されます。使用している通信モードによって操作が異なります。

●インフラストラクチャ・モードの場合は、そのまま **OK** ボタンをクリックします。

●アドホック・モードの場合は、「これはコンピュータ相互・・・」をオンにしてから **OK** ボタンをクリックします。



6 「優先するネットワーク」にネットワークが表示されますので、**適用** ボタンをクリックします。



- ・無線LANに接続します。
- ・使用できる可能性のあるネットワークは、手順 **4** **5** の操作をくり返して、「優先するネットワーク」に登録してください。

- 7** 【ステータス】タブをクリックします。「接続ステータス」が「接続」になっていることを確認し、**OK** ボタンをクリックします。



これで無線LANの接続作業は完了です。

よりセキュリティを高めるためにESS IDを初期値から変更したり、WEPを設定するなど、その他のオプションを設定する場合はP44「3.設定ユーティリティのリファレンス」以降をお読みください。

導入後のご使用にあたって

本製品の導入後は、Windowsを起動すると自動的に無線LANに接続するようになっていきますので、特に接続操作をする必要はありません。導入後は以下の点についてご注意ください。

●セキュリティ対策について

導入後は自動的に無線LANに接続しますのでセキュリティについてはご注意ください。定期的にESS IDを変更したり、WEPを設定することをお勧めします。

●接続をオフにする方法

- ①設定ユーティリティを起動します(➡P40の手順 **2** **3**)。
- ②タスクトレイの設定ユーティリティのアイコンを右クリックします。
- ③メニューの「電波OFF」を選択します。

※接続をオンにしたい場合は、メニューの「電波ON」を選択します。

●接続先の切り替え

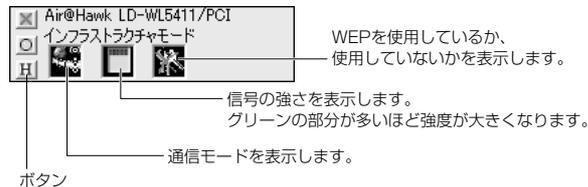
現在接続しているESS IDと別のESS IDに接続したい場合は、P45「優先するネットワーク」をお読みください。

●ネットワーク設定について

無線LANが正しく設定されていても、各コンピュータのネットワーク設定やインターネットへ接続する設定が終わっていないと、それぞれには接続できません。Windows XPでの設定例についてはP58「Windows XPでのネットワーク設定」をお読みください。

簡易ステータスについて

設定ユーティリティをインストールすると、無線LANの状況がひと目でわかる簡易ステータスが表示できるようになります。簡易ステータスが表示されていない場合は、タスクトレイの  アイコンをダブルクリックすると表示されます。



●ボタンの機能

	このボタンをクリックすると簡易ステータスを閉じます。
	このボタンをオン(押し込まれた状態)にすると、デスクトップ上で簡易ステータスが他のウィンドウと重なった場合に、他のウィンドウがアクティブな状態でも常に簡易ステータスが前面に表示されるようになります。
	このボタンをオン(押し込まれた状態)にすると、デスクトップ上のどこかをクリックしたときに、簡易ステータスが閉じます。

3 設定ユーティリティのリファレンス

MEMO 設定ユーティリティを表示するには
表示方法についてはP40「無線LANに接続する」の手順 2 3 をお読みください。

設定 タブ

【設定】タブには接続可能なESS IDが表示されます。また、プロパティや詳細設定のボタンもあります。



: 接続可能なESS ID : 接続不可のESS ID

※アドホック・モードの場合はアンテナの代わりにカードのイラストのアイコンが表示されます。

●利用できるネットワーク

本製品を取り付けたコンピュータの周囲にある接続可能な無線LANグループのESS IDが表示されます。

構成	表示されたESS IDのワイヤレスネットワークのプロパティが表示されます。WEPの設定などはプロパティで設定します。この画面の説明については、P46「ワイヤレスネットワークのプロパティ」をお読みください。
最新の情報に更新	表示される情報を最新の情報に更新します。

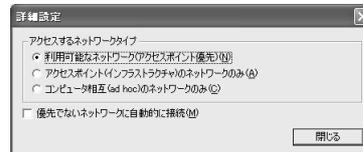
●優先するネットワーク

登録された無線LANグループのESS IDを一覧で表示します。上から順に接続の優先度が高くなります。優先度を変更することもできます。

上へ移動	選択したESS IDを上または下へ移動します。クリックするたびにひとつ移動します。
下へ移動	
追加	新しいESS IDを作成します。
削除	選択したESS IDを削除します。
プロパティ	選択したESS IDのプロパティを表示します。

詳細設定

接続相手の通信モードや接続相手を指定したい場合に設定します。



注意 間違った設定をすると、気づかない間に第三者の無線LANグループに接続する恐れがありますので注意してください。

利用可能なネットワーク (アクセスポイント優先) [初期値]	インフラストラクチャ・モード、アドホック・モードの無線LANグループが両方とも存在する場合は、両方を利用可能なネットワークのESS IDとして認識します。ただし、インフラストラクチャ・モードのネットワークに優先的に接続します。
アクセスポイント (インフラストラクチャ) のネットワークのみ	インフラストラクチャ・モードの無線LANグループだけを利用可能なネットワークのESS IDとして認識します。

(次ページに続く)

コンピュータ相互 (ad hoc)のネットワークのみ	アドホック・モードの無線LANグループだけを利用可能なネットワークのESS IDとして認識します。
優先でないネットワークに自動的に接続	この項目を有効にすると、優先するネットワークの一覧に登録されていない無線LANグループであっても、接続可能な無線LANグループであれば、自動的に接続するようにします。気づかない間に第三者の無線LANグループに接続する恐れがありますので注意してください。

ワイヤレスネットワークのプロパティ

〈ワイヤレスネットワークのプロパティ〉画面では、ESS IDの設定およびアドホック・モードの指定、WEPによる暗号化の設定ができます。

ESS IDを入力します。

WEPの設定をします。
P51をお読みください。

アドホック・モードで
使用する場合に有効にします。

ステータス タブ

無線LANおよび本製品の情報を表示します。

●接続情報

接続ステータス	現在の接続状態を表示します。「接続」なら接続相手と正常に接続しています。「未接続」の場合は正常に接続していません。
SSID	現在接続している無線LANグループのSSID(ESS ID)が表示されます。
ネットワークタイプ	現在の通信モードを表示します。
WEPステータス	WEPの設定が有効であるか、無効であるかを表示します。
接続速度	現在接続している無線LANの通信速度を表示します。
シグナルの強さ	信号の強さをインジケータで表示します。青色のバーが長いほど信号が強いことを示します。

●ハードウェア情報

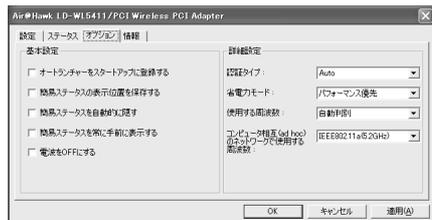
MACアドレス	本製品のMACアドレスを表示します。
周波数ドメイン	本製品が使用可能な周波数ドメインを表示します。本製品は日本国内向けの製品です。

●その他のステータス

無線ステータス	【オプション】タブで本製品の電波出力を一時的にOFFにすることができます。その設定状態をON/OFFで表示します。
---------	---

オプションタブ

設定ユーティリティおよび簡易ステータスの無線LANを使用するのに必要な環境を設定します。設定を変更した場合は、必ず **適用** ボタンまたは **OK** ボタンをクリックしてください。



基本設定

●オートルランチャーをスタートアップに登録する

この項目をオンにすると、Windowsを起動したときに、デスクトップ画面の右下にあるタスクトレイに設定ユーティリティのアイコンが自動的に表示されるように設定します。このアイコンを右クリックし、[Wireless Network]を選択するだけで設定ユーティリティが表示されます。

●簡易ステータスの表示位置を保存する

この項目をオンにすると、デスクトップ上の簡易ステータスを表示していた位置を記憶します。次回、簡易ステータスを表示したときに、同じ場所に表示されます。

●簡易ステータスを自動的に隠す

この項目をオンにすると、デスクトップ上のどこかをクリックしたときに、簡易ステータスが閉じます。

●簡易ステータスを常に手前に表示する

この項目をオンにすると、デスクトップ上で簡易ステータスが他のウィンドウと重なった場合に、他のウィンドウがアクティブな状態でも常に簡易ステータスが前面に表示されるようになります。

●電波をOFFにする

電波を発信していると電力を消費します。本製品を接続したまま無線LANを一時的に使用しない場合など、電波の発信を一時的に中断することで電力の消費を抑えます。バッテリー使用時などに便利な機能です。また、電波の発信を中断することで、未使用時の混信や不正アクセスを防ぐことができます。

詳細設定

●認証タイプ

「Auto」のまま変更しないでください。

●省電力モード

無効	省電力モードを使用しません。
省電力優先	消費電力を抑えることを優先します。そのため電波の受信率が下がることがあります。
パフォーマンス優先 (初期値)	消費電力を抑えることよりも、電波の受信率を高めることを優先します。「省電力優先」よりは消費電力が多くなります。

●使用する周波数

本製品はデュアルバンド対応ですが、実際の接続は両方同時には行えません。どちらかの周波数のみご使用の場合は、もう片方の周波数をサーチしないように周波数を指定したほうが、パフォーマンスが向上します。初期値は「自動判別」です。

●コンピュータ相互(ad hoc)のネットワークで使用する周波数

アドホック・モードの場合はESS IDを1個しか指定できません。そのため本製品のようにデュアルバンド対応の機器であっても、どちらの周波数で接続するかを指定する必要があります。初期値はIEEE802.11a(5.2GHz)でアドホック・モードを使用するようになっていますので、IEEE802.11b(2.4GHz)でアドホック・モードをご使用になる場合は設定を変更する必要があります。

情報 タブ

設定ユーティリティのバージョンを表示します。



4 WEPを設定する

Laneed

無線LAN上でやり取りされるデータを盗聴から保護するためにWEP(Wired Equivalent Privacy)によりデータを暗号化することができます。WEPを使うと、WEPを設定したコンピュータだけがデータを読み取れるようになります。

WEP設定のポイント

WEPキーにはキー1～キー4まであり、同時に4種類のキーを登録できます。コンピュータAとコンピュータBの間で暗号化したデータをやり取りする場合は、お互いが同じWEPキー番号(キー1～キー4のいずれか)に同じキーワードを入力します。これで相互に暗号化されたデータを正しく受信できます。キー番号は4つありますが、実際に使用するのはひとつだけです。使用するWEPキー番号にだけ文字列を設定してもかまいません。WEPを設定しても暗号キーの文字列が異なったり、文字列が同じでも使用するWEPキー番号が異なったりすれば、データのやり取りはできません。



暗号化のビット数とキーに入力できる文字

各キー(キー1～キー4)に入力できる文字は半角文字の16進数(16進数入力モード時)と半角英数字(半角英数字入力モード時)だけです。

●暗号化のビット数

64ビット	64ビットで暗号化します。40ビットのWEPと互換性があります。
128ビット	128ビットで暗号化します。同じ無線LANグループの無線LANアダプタおよびアクセスポイントが128ビットの暗号化に対応している必要があります。

●キーの形式

半角英数字 ASCII文字	半角英数字(ASCIIコード)を使用することができます。全角文字や記号は使えません。
16進数	半角文字の16進数を使用することができます。16進数は0～9の数字とA～Fのアルファベットで構成される文字列です。例えば「0C2F91A27B」のようになります。全角文字や記号は使えません。

※本製品では暗号に半角英数字(ASCII文字)を使用することができますが、同じ無線LANグループに16進数しか扱えない機器がある場合は半角英数字を使用することはできません。

ネットワーク認証について

WEPの設定項目に「ネットワーク認証(共有モード)」という項目があります。この項目は認証方式にシェアードキー認証を使用するかオープンシステム認証を使用するかを選択する項目です。オフの状態で使用しても問題はありません。

有効(オン) にしたとき	シェアードキー認証になります。WEPで使用する暗号キーを利用してお互いが共通の暗号キーを持っていることを確認します。
無効(オフ) にしたとき	オープンシステム認証になります。無線LANアダプタがアクセスポイントに接続する場合に、認証をおこないません。

WEPの設定手順

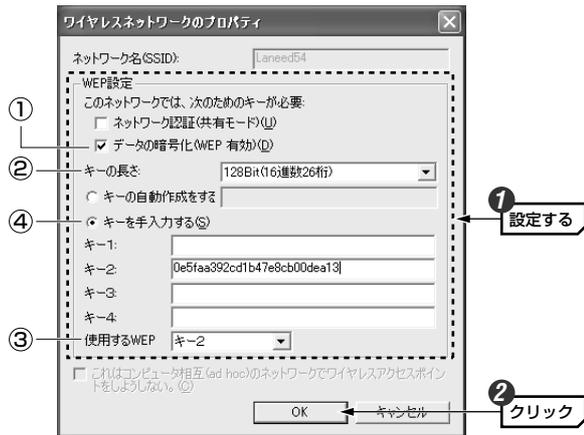
1 本製品の設定ユーティリティを表示します。

詳しくはP40「無線LANに接続する」の手順 2 3 を参照してください。

2 [優先するネットワーク]にある使用中のESS IDを選択し、[プロパティ] ボタンをクリックします。



3 以下の説明を参考に必要事項を設定し、**[OK]** ボタンをクリックします。



① 「データの暗号化(WEP有効)」をオンにします。

※ 「ネットワーク認証」についてはP52参照

② 「キーの長さ」で暗号化の種類を選択します。

③ 「使用するWEP」で使用するキー番号を選択します。

④ ③で選択したキー番号に②で選択した条件で、文字列を入力します。

・文字数は指定数よりも多くても少なくとも同じく設定できません。同じ無線LANグループの機器には、すべて同じ暗号キーを入力します。

	ASCII文字を入力する場合	16進数を入力する場合
64ビット	5文字半角英数字	10文字の16進数
128ビット	13文字の半角英数字	26文字の16進数

※ ASCII文字は半角英数字、16進数はA～Fおよび0～9の半角英数字です。



[OK] ボタンをクリックすると、表示されていた暗号キーは「*」表示になります。**[OK]** ボタンをクリックする前に、メモするなどして大切に保管してください。

MEMO

「キーの自動作成をする」について

● 弊社の54Mbps無線LAN対応製品だけを使用する環境では、ここに任意の文字列(使用する文字に制限はありません)を入力するだけで自動的に16進数を作成し、暗号キーとして利用できます。

● この機能を利用した場合でも「使用するWEP」のキー番号は、すべての機器で同じキー番号に設定する必要があります。キー番号が異なる場合は、いったん「キーを手入力する」をオンにし、キー番号を変更してから「キーを自動作成する」をオンにしてください。

● もうひとつの利用方法として、自動作成された16進数を暗号キーとして利用する方法があります。「キーの自動作成をする」をオンにし、任意の文字列(使用する文字に制限はありません)を入力します。そのあとで「キーを手入力する」をオンにすると、簡単に16進数の暗号キーを作成することができます。この方法であれば、自動的に作成された16進数を本製品以外の設定ユーティリティやWindows XPのWEP設定でも利用できます。

4 <ワイヤレスネットワークのプロパティ> 画面を閉じるとメイン画面に戻ります。メイン画面の**[OK]** ボタンをクリックします。



・ WEPが有効になります。各コンピュータの設定が終わるまでネットワークに接続できなくなります。

これでこのコンピュータのWEPの設定は完了です。同じ無線LANグループのすべてのコンピュータおよびアクセスポイント(無線ルータ)に同じ内容でWEPを設定します。

MEMO

簡易ステータスを表示するとWEPアイコンが変化しています。

WEP設定前



WEP設定後



Topics 無線LANの基礎知識 その②

無線LANのセキュリティ機能

無線LANは電波でデータを送受信するので、知らない間にネットワークに不正アクセスされたり、電波を盗聴される可能性があります。そこで、無線LANカードおよびアクセスポイントには不正アクセスや盗聴を防止するためのセキュリティ機能を備えています。

●ESS ID(Extended Service Set ID)

隣接した場所で同じ製品もしくは同じ帯域を利用する無線LANがあると、無線を使ってやり取りしているデータが混信する恐れがあります。そこで他のネットワークと自分たちのネットワークを区別するためにESS IDと呼ばれる無線LANのグループ名称を決めることができます。同じ無線LANのグループに所属するコンピュータには同じ名称のESS IDを設定することで、他のESS IDを持った無線LANグループとは区別され、混信や不正アクセスなどを防ぐことができます。

●MACアドレスフィルタリング

ネットワークアダプタには、世界中に同じ番号が存在しない「MACアドレス」と呼ばれる固有の番号が割り当てられています。そこでアクセスポイントに無線LANアダプタのMACアドレスを登録することで、そのMACアドレスを持つ無線LANアダプタから無線LANへのアクセスの許可/不許可を設定することができます。MACアドレスは製品の裏ラベルなどに記載されています。

●WEP(Wired Equivalent Privacy)

ESS IDやMACアドレスフィルタリングは、不正アクセスを防止するための機能ですが、それだけでは特殊な装置を持った第三者に意図的に盗聴される恐れがあります。弊社製品ではさらにセキュリティを高めるために、WEPという機能を利用できます。WEPはデータを暗号化する機能で、暗号の元になるキーワードもしくは40～128ビットの数値をキーとして暗号に利用します。同じネットワークの利用者だけに暗号を知らせることで、たとえ第三者が電波を盗聴してもデータを解読することができなくなります。

→その①はP30へ →その③はP72へ

Chapter 4

付 録 編

付録編は、おもに各OSでの一般的なネットワーク設定の方法と本製品がうまく動作しない場合のトラブルシューティング「こんなときは」です。「こんなときは」をお読みになっても解決しない場合は、「サポートサービスについて」をご覧ください。

1. OSごとのネットワークの設定例……………58
2. こんなときは……………73
3. サポートサービスについて……………77
4. 基本仕様……………79

1 OSごとのネットワークの設定例

LANeed

無線LANが接続できるようになっても、インターネットに接続したり、ネットワーク上のコンピュータとファイルの交換をするには、別にネットワーク設定が必要です。ここではOSごとの一般的なネットワーク設定について簡単に説明します。

MEMO IPアドレスの設定について

インターネットを利用したり、Windows XPでファイル共有をするなどTCP/IPプロトコルを使用するサービスでは、各コンピュータにIPアドレスの設定が必要になります。ご使用の環境がルータを利用している場合はDHCPサーバ機能によりIPアドレスが自動的に割り当てられますが、それ以外の場合は手でIPアドレスを設定する必要があります。このあとの説明を参考にIPアドレスを設定してください。「IPアドレス」についてはP72も参照してください。

Windows XPでのネットワーク設定

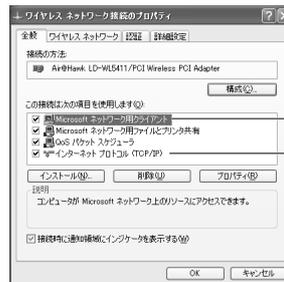
サービスとプロトコルの設定

- ① デスクトップ画面の右下にあるタスクトレイの[ワイヤレスネットワーク接続]アイコンをクリックします。



- ② <ワイヤレス ネットワーク接続の状態> 画面が表示されますので、**プロパティ** ボタンをクリックします。

- ③ お使いのネットワーク環境に応じた設定になっているか確認します。通常は初期値のままですぐに利用できるようになっています。



他のコンピュータと
ファイルやプリンタを
共有するとき必要

インターネットへの
接続やファイルの共有を
使うときに必要

- 一覧に表示されていないプロトコルやサービスを使う場合は、**インストール** ボタンをクリックし、メッセージに従って操作します。

MEMO DHCPサーバ機能がない環境でTCP/IPを使用するときは

インターネットに接続するために使用するルータなどには、IPアドレスを自動的にネットワーク機器に割り当てるDHCPサーバ機能があります。しかし、DHCPサーバ機能を使用しない場合や特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、次の手順で設定してください。

- ①「インターネットプロトコル(TCP/IP)」を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。

- ②「次のIPアドレスを使う」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを入力します。



- ④ <ワイヤレス ネットワーク接続のプロパティ> 画面の **閉じる** ボタンをクリックします。続いて <ワイヤレス ネットワーク接続の状態> 画面の **閉じる** ボタンをクリックします。

- これでサービスとプロトコルの確認ができました。

小規模ネットワークの設定

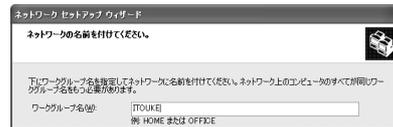
- ① [スタート]→[コントロールパネル]を選択します。
- ② コントロールパネルにある「ネットワークとインターネット接続」をクリックします。
- ③ 「作業を選びます」にある「ホームネットワークまたは小規模オフィスのネットワークをセットアップまたは変更する」をクリックします。
- ④ ネットワークセットアップウィザードの〈ネットワークセットアップウィザードの開始〉画面が表示されたら、**[次へ]** ボタンをクリックします。
- ⑤ 〈続行する前に...〉画面の説明を読み、ネットワークに接続するための準備ができていないか確認し、**[次へ]** ボタンをクリックします。
- ⑥ 〈接続方法を選択してください。〉画面で、実際にご使用の環境に合わせ接続方法を選択し、**[次へ]** ボタンをクリックします。

MEMO ご使用のネットワークがインターネットに接続していない場合は、「その他」を選択し、**[次へ]** ボタンをクリックします。この場合、〈ほかのインターネット接続の方法...〉画面が表示されますので、「インターネットに接続していないネットワークに属している」を選択し、**[次へ]** ボタンをクリックします。そのあと手順 7 へ進みます。

- ⑦ 〈このコンピュータの説明と名前を入力してください〉画面が表示されたら、[コンピュータの説明]と[コンピュータ名]を入力し、**[次へ]** ボタンをクリックします。

コンピュータの説明	コンピュータを所有している部署や設置場所の名前など、コンピュータに関する簡単な説明文を入力します。
コンピュータ名	このコンピュータに付ける名前を設定します。一般的には、個人単位で使うコンピュータならユーザの名前、部署単位で使うコンピュータなら部署名などを入力します。

- ⑧ 〈ネットワークの名前を付けてください〉画面で、[ワークグループ名]を入力し、**[次へ]** ボタンをクリックします。



ワークグループ名	このコンピュータを接続するネットワークのグループです。プリンタやファイルを共有する同じネットワーク上のコンピュータには、すべて同じワークグループ名をつけます。
----------	---

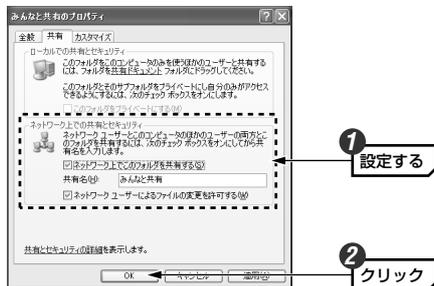
- ⑨ 〈ネットワーク設定を適用する準備ができました〉画面で設定を確認し、**[次へ]** ボタンをクリックします。
 - ⑩ 〈もう少しで完了です〉画面が表示されます。ご使用になっている環境に合わせてオプションを選択し、**[次へ]** ボタンをクリックします。
 - ・「ネットワークセットアップディスク」を作成すると、そのディスクを使って他のコンピュータのネットワーク設定を簡単におこなうことができます。
 - ⑪ 〈ネットワークセットアップウィザードの完了〉画面で、**[完了]** ボタンをクリックします。
 - ⑫ 再起動を促すメッセージが表示されたら、**[はい]** ボタンをクリックします。
- コンピュータが再起動し、ネットワークの設定が有効になります。

共有フォルダの設定

ネットワーク上の他のコンピュータから、このコンピュータのフォルダにアクセスできるようにするには、フォルダごとに共有とセキュリティの設定をする必要があります。

MEMO マイコンピュータには、「共有ドキュメント」という共有フォルダが自動的に作成されます。ここでは任意に設定したフォルダを共有化する説明をしています。

- 共有したいフォルダを右クリックし、メニューから[共有とセキュリティ]を選択します。
- [ネットワーク上での共有とセキュリティ]の項目を設定し、**OK** ボタンをクリックします。



ネットワーク上でこのフォルダを共有する	他のコンピュータからこのフォルダにアクセスできるようにするには、この項目をオンにします。
共有名	他のコンピュータでは、ここで設定したフォルダ名が表示されます。
ネットワークユーザーによる...	他のコンピュータのユーザーがこのフォルダ内のファイルを変更できるようにするには、この項目をオンにします。

- これで、他のコンピュータからこのフォルダにアクセスできるようになりました。

MEMO 同様にLAN上のコンピュータに接続されたプリンタも共有可能です。

- プリンタが接続されたコンピュータで[スタート]→[コントロールパネル]を選択し、コントロールパネルにある「プリンタとその他のハードウェア」をクリックします。
- 「プリンタとFAX」をクリックします。
- 共有したいプリンタのアイコンを右クリックし、メニューから[共有]を選択します。

Windows Me/98でのネットワーク設定

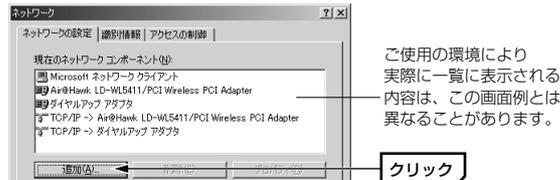
Windows Me/98の小規模ネットワークでよく利用されるピア・ツー・ピア環境の設定例を説明します。画面例はWindows Meを使用していますがWindows 98でもほとんど同じです。

- [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の順に選択し、コントロールパネルにある「ネットワーク」をダブルクリックします。



- ・〈ネットワーク〉画面が表示されます。
- ・Windows Meでよく使うコントロールパネルだけが表示されている場合は、「すべてのコントロールパネルのオプションを表示する。」をクリックすると「ネットワーク」が表示されます。

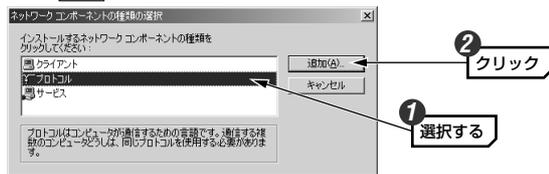
- [ネットワークの設定] タブにある **追加** ボタンをクリックします。



クリック

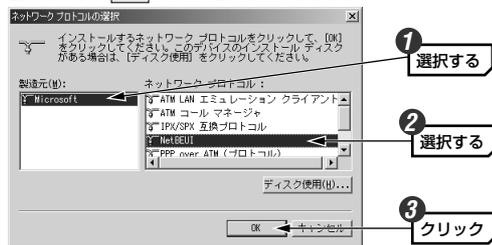
ご使用の環境により実際に一覧に表示される内容は、この画面例とは異なることがあります。

- ③ インストールするネットワークコンポーネントとして「プロトコル」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

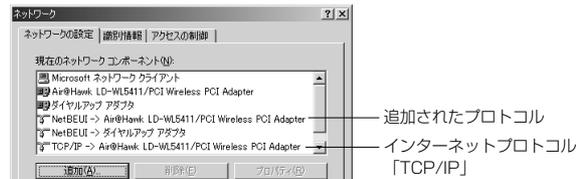


・〈ネットワークプロトコルの選択〉画面が表示されます。

- ④ 製造元で「Microsoft」を、ネットワークプロトコルで「NetBEUI」を選択します。「OK」ボタンをクリックします。



- ⑤ プロトコルが追加されたことを確認します。また、インターネットに接続する場合は、「TCP/IP」プロトコルがインストールされていることを確認します。



・ TCP/IPプロトコルがない場合は、手順 ② ~ ④ を参考にして追加します。

MEMO DHCPサーバ機能がない環境でTCP/IPを使用するときにはインターネットに接続するために使用するルータなどには、IPアドレスを自動的にネットワーク機器に割り当てるDHCPサーバ機能があります。しかし、DHCPサーバ機能を使用しない場合や特定のIPアドレスを割り当てる必要がある場合は、次の手順で設定してください。

- ①「TCP/IP->Air@Hawk LD-WL5411/PCI Wireless PCI Adapter」を選択し、「プロパティ」ボタンをクリックします。
- ②「IPアドレスを指定」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを入力します。



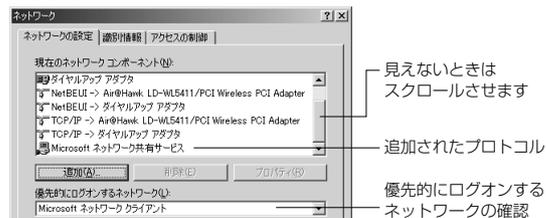
- ⑥ もう一度、〈ネットワーク〉画面で「追加」ボタンをクリックします（手順②参照）。

・〈ネットワークコンポーネントの種類の選択〉画面が表示されます。

- ⑦ インストールするネットワークコンポーネントとして「サービス」を選択し、「追加」ボタンをクリックします。

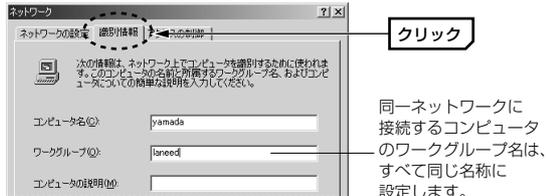
- ⑧ モデルから「Microsoftネットワーク共有サービス」を選択し、「OK」ボタンをクリックします。

- ⑨ サービスが追加されたことを確認します。また、[優先的にログオンするネットワーク]が「Microsoftネットワーククライアント」になっていることを確認します。



- ⑩ **「ファイルとプリンタの共有」** ボタンをクリックします。
- ⑪ 「ファイルを共有・・・」「プリンタを共有・・・」の両方をオン(有効)にし、**「OK」** をクリックします。

- ⑫ **【識別情報】** タブをクリックします。



- ⑬ 内容を確認し、正しければ **「OK」** ボタンをクリックします。
- ・変更が必要な場合は[コンピュータ名]と[ワークグループ]を入力します。
 - ・項目の意味については、P22の「MEMO」を参照してください。

MEMO

●Windows 98 CD-ROMを要求された場合

Windows 98のCD-ROMを入れるようにメッセージが表示されたときは、Windowsのディスクを挿入し、**「OK」** をクリックします。

- ・表示されたメッセージに対応したOSのディスクを入れます。
- ・Windows 98には「Windows 98 CD-ROM」と「Windows 98 Second Edition CD-ROM」がありますのでご注意ください。

●ファイルが見つからないと表示されたとき

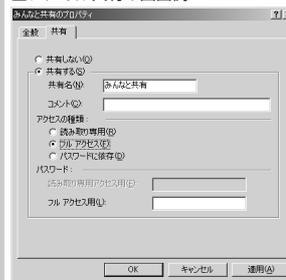
Windows 98のディスクを挿入したドライブを指定する画面が表示されたときは、P24の手順 7のMEMOを参考に指定します。ドライブ名のあとに、Windows 98なら「WIN98」ディレクトリを、Windows Meなら「WIN9x」ディレクトリを指定し、**「OK」** ボタンをクリックしてください。

- ⑭ 再起動を確認するメッセージが表示されますので **「はい」** ボタンをクリックします。

- ⑮ 再起動すると設定した内容が有効になります。これでピア・ツー・ピアのネットワーク設定は完了です。なお、同じネットワークに接続されるコンピュータはすべて同じ設定をする必要があります。

MEMO ファイルやプリンタを共有するには、ネットワークが有効になってから次の手順で共有設定をおこなってください。

■ファイル共有の画面例



- ①共有したいファイルのあるフォルダやプリンタのアイコンを右クリックし、メニューから[共有]を選択します。
- ②「共有する」をオンにし、必要な事項を設定します。

Windows 2000でのネットワーク設定

●Windows 2000にはAdministrator権限でログオンしておきます。

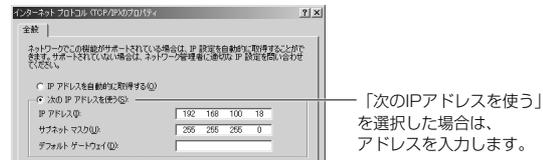
- ① [スタート]→[設定]→[ネットワークとダイヤルアップ接続]を開きます。
 - ・ <ネットワークとダイヤルアップ接続> 画面が表示されます。
- ② [ローカルエリア接続]を右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。
 - ・ <ネットワークとダイヤルアップ接続> 画面が表示されます。

- ③ [インターネットプロトコル(TCP/IP)]を選択し、**プロパティ** ボタンをクリックします。



・ <インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ> 画面が表示されます。

- ④ IPアドレスに関する設定をします。



●DHCPサーバ(機能)を使用している場合

「IPアドレスを自動的に取得する」を選択します。

●DHCPサーバ(機能)を使用していない場合

「次のIPアドレスを使う」を選択し、IPアドレスとサブネットマスクを入力します。「デフォルトゲートウェイ」と「DNSサーバ」はルータなどを使用してLANを超える場合に使用する項目なので、ここでは入力していません。

- ⑤ IPアドレスの設定が終われば、**詳細設定** ボタンをクリックします。

・ <TCP/IP詳細設定> 画面が表示されます。

- ⑥ [WINS] タブで、「NetBIOS over TCP/IPを有効にする」をオンにし、**OK** ボタンをクリックします。

・ <インターネットプロトコル(TCP/IP)のプロパティ> 画面に戻ります。

- ⑦ 各画面の **OK** ボタンをクリックして画面を閉じます。さらに、<ネットワークとダイヤルアップ接続> 画面を閉じます。

- ⑧ [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の[システム]アイコンを開きます。

・ <システムのプロパティ> 画面が表示されます。

- ⑨ [ネットワークID] タブで、**プロパティ** ボタンをクリックします。

- ⑩ コンピュータ名とワークグループ名を設定し、**OK** ボタンをクリックします。

・ 表示されているコンピュータ名とワークグループ名から変更する必要がない場合は、**キャンセル** ボタンをクリックします。

- ⑪ 名称を変更すると次のようなメッセージが表示されます。それぞれ **OK** ボタンをクリックします。

・ <システムのプロパティ> 画面が表示されます。

- ⑫ <システムのプロパティ> 画面で、**OK** ボタンをクリックします。

- ⑬ 設定を変更した場合は、再起動を促すメッセージが表示されますので **はい** ボタンをクリックします。

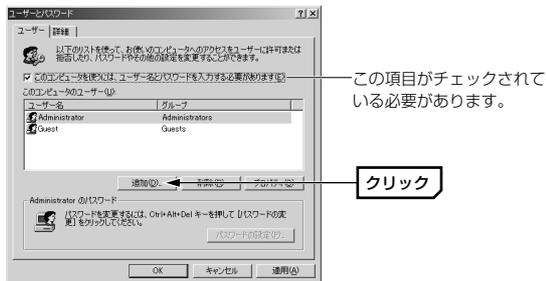
● これで基本的なネットワーク設定は完了です。このほか、同じ要領で実際の環境に合わせた設定をおこなってください。

ユーザアクセス権の設定

Windows 2000をインストールしたコンピュータにアクセスできるようにするには、あらかじめ、アクセスを許可するユーザを登録しておく必要があります。

① [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]の順に選択し、コントロールパネルにある[ユーザーとパスワード]を開きます。

② <ユーザーとパスワード>画面が表示されますので、**追加** ボタンをクリックします。



③ このあとは、ウィザードのメッセージに従って、新しいユーザを登録します。



④ 登録が完了すると、登録したユーザのアクセスが許可されるようになります。

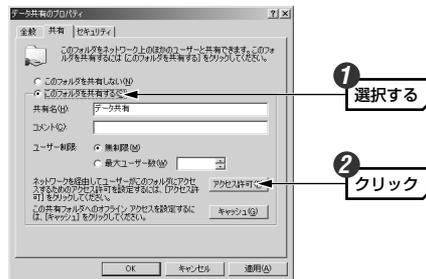
フォルダなどの共有設定

Windows 2000上のフォルダやドライブにアクセスできるように共有設定をおこないます。Windows 2000はアクセス権の設定がWindows Me/98に比べて詳細になっています。また、NTFSフォーマットでドライブをフォーマットしている場合は、さらにセキュリティ設定が必要になります。

① 共有したいフォルダを右クリックし、メニューから[プロパティ]を選択します。

・フォルダのプロパティが表示されます。

② **【共有】** タブで「このフォルダを共有する」をオンにし、**アクセス許可** ボタンをクリックします。



③ このあとは、必要に応じてフォルダに対するアクセス権を設定してください。なお、NTFSフォーマットの場合は、**【セキュリティ】** タブでアクセス権を設定することをお勧めします。

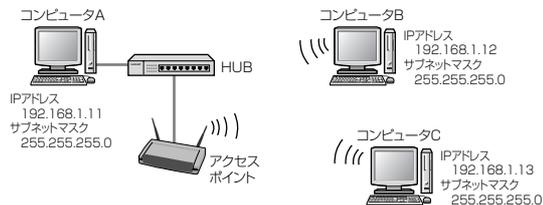
IPアドレスについて

インターネットなどTCP/IPプロトコルを利用してデータをやり取りする場合は、各コンピュータにIPアドレスを設定する必要があります。ルータをご利用の場合は、DHCPサーバ機能により、各コンピュータに自動的にIPアドレスが割り当てられます。しかし、ルータがないネットワークでは手動でIPアドレスを設定する必要があります。

●IPアドレスとは

IPアドレスはTCP/IPプロトコルを使用する場合に必要なになります。インターネットへの接続やWindows XPでファイルを共有する場合にIPアドレスの設定が必要です。IPアドレスはネットワーク上のコンピュータを識別するためのアドレス番号です。そのためコンピュータごとに異なるアドレス番号を設定する必要があります。

小規模なローカルネットワークでは「192.168.1.xx」といったようなIPアドレスを使用するのが一般的です。「xx」のところは「11」「12」「13」というように順番に各コンピュータに割り当てるとよいでしょう。サブネットマスクはすべてのコンピュータに同じ数値を割り当てます。「255.255.255.0」が一般的です。



●DHCPサーバ機能

IPアドレスを各コンピュータに手動で割り当てるのは手間のかかる作業です。DHCPサーバ機能を利用するとIPアドレスを自動的に各コンピュータに割り当てることができます。そのためインターネットプロトコルであるTCP/IPプロトコルが必須になるルータでは標準機能として装備されています。

→その①はP30へ →その②はP56へ

2 こんなときは

Laneed!

無線LAN関係のトラブル

●無線LANがつかまらない。

①弊社製アクセスポイント(無線ルータ)のAPステルス機能を有効にしているませんか。APステルス機能を使用している場合は、ESS IDを手入力で設定する必要があります。P38「APステルス機能とアドホック・モードの事前設定」をお読みください。

②通信モードを正しく設定していますか。アドホック・モードの場合はワイヤレスネットワークのプロパティでアドホック・モードを使用するように設定する必要があります(→P38)。また、詳細設定で設定を間違っていると正しく接続できないことがあります(→P45)。

③ネットワーク設定で、実際のネットワーク環境に応じたプロトコル、サービスなどの設定をしていますか。プロトコル(TCP/IPなど)、クライアント(Microsoft Networkクライアントなど)、サービス(Microsoft Network共有サービスなど)を環境に応じて設定する必要があります。→P58

④ルータなどのDHCPサーバ機能を使用せずにインターネットプロトコル「TCP/IP」を利用する場合は、各パソコンに手動でIPアドレスを割り当てる必要があります。詳しくはWindows XP→P58、Windows Me/98→P65の「MEMO」を参照してください。Windows 2000→P68の手順④を参考にしてください。

例としてはIPアドレスを192.168.1.11から順に「11」の部分を変えて各パソコンに割り当てます。「192.168.1」の部分は固定です。サブネットマスクは「255.255.255.0」を割り当てます。サブネットマスクは各パソコンとも同じ数値を入力します。既存のネットワークと接続する場合は、使用中の環境に合わせます。

※CATVインターネットなどでは、回線事業者からIPアドレスを指定される場合があります。その場合は指示に従ってください。

⑤WEP設定やアクセスポイントのMACアドレスフィルタリング設定は正しいですか。WEP設定は、データをやり取りするすべてのコンピュータで同じ暗号を使用する必要があります。また、MACアドレスフィルタリングを設定していると、設定条件によっては無線LANに接続できない場合があります。

●WEP設定後に無線LANがつかない。

WEP設定のビット数、文字の指定(半角英数字/16進数)、キー番号、認証方式などは、アクセスポイント(無線ルータ)を含めて、すべて同じ設定になっていますか。

設定が異なると接続相手を認識できなくなります。設定が正しい場合は、アクセスポイントを含め、すべての機器の電源を入れ直してから接続してみてください。

共通のトラブル

●インターネットに接続できない

- ①TCP/IPプロトコルが設定されているかを確認してください。
〈ネットワーク〉画面でTCP/IPプロトコルが設定されているかを調べてください。見当たらない場合は、TCP/IPプロトコルを追加してください。
- ②DHCPサーバ機能を使用していない場合は、IPアドレスを手動で割り付けてください。TCP/IPのプロパティにある【IPアドレス】タブで設定します。詳しくはWindows XP⇒P58、Windows Me/98⇒P65の「MEMO」を参照してください。Windows 2000⇒P68の手順④を参考にしてください。
- ③TCP/IPプロトコルの設定が正しいかを確認してください。
プロバイダによって、IPアドレスを自動取得する場合と固定IPアドレスを指定する場合があります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。

④プロバイダから提供された情報をすべて設定しているかを確認してください。IPアドレス以外にも、識別情報の指定などが必要なことがあります。プロバイダから提供されるマニュアルで確認の上、正しい設定をおこなってください。

●本製品の設定は正常に終了したが、ネットワークコンピュータを開くと「ネットワークを参照できません。」のエラーが表示される。

正常にネットワークの設定ができていない可能性があります。もう一度、本製品の設定を確認し、OS側が本製品を正常に認識しているか調べてください。

- ・Windows XPで本製品が正常に動作しているかを確認する方法
⇒P17の手順 **6** ~ **7**
- ・Windows Me/98上で本製品が正常に動作しているかを確認する方法
⇒P20の手順 **6** ~ **7**
- ・Windows 2000上で本製品が正常に動作しているかを確認する方法
⇒P28の手順 **9** ~ **10**

●他のコンピュータとファイルやプリンタの共有ができない。

- ①ネットワーク設定をしましたか。
無線LANが正常に動作しているもネットワーク設定ができていないとファイルの共有やプリンタの共有はできません。P58「1.0Sごとのネットワーク設定例」を参照してください。
- ②ネットワークには接続できて相手側へ入れるようになったが、相手側のドライブやプリンタの使用ができないときは次の点を確認してください。
 - ・利用者がアクセスを許可するユーザとして登録されていますか。ユーザが登録されているか確認してください。
 - ・利用者が共有フォルダにアクセスできるように設定していますか。また、アクセス内容を正しく設定していますか。NTFSフォーマットのハードディスクの場合は、さらにセキュリティ設定でも利用者を登録しておく必要があります。

●Windows XP/2000でネットワーク設定ができない。

Administrator権限でログオンしていますか。ネットワークの各種設定にはAdministrator権限がないと設定できない項目があります。

本製品のIPアドレスを知りたいとき

A. Windows XP/2000の場合

コマンドプロンプトを表示し、「ipconfig」を実行してください。

(例)Windows XPでの実行方法

- ① [スタート]→[すべてのプログラム]→[アクセサリ]→[コマンドプロンプト]を選択します。
- ② 「>」の後ろでカーソル点滅していますので、キーボードから「ipconfig」と入力し、**Enter** キーを押します。
- ③ IPアドレス等が表示されます。

```
C:\Documents and Settings\User>ipconfig

Windows IP Configuration

Ethernet adapter ローカル エリア接続:

    Connection-specific DNS Suffix  . : WorkGroup
    IP Address. . . . .                : 192.168.1.16
    Subnet Mask . . . . .             : 255.255.255.0
    Default Gateway . . . . .         : 192.168.1.254
```

B. Windows Me/98の場合

- ① [スタート]メニューから[ファイル名を指定して実行]を選択します。
- ② 「名前」に「winipcfg」と入力し、**OK** ボタンをクリックします。
- ③ <IP設定>画面が表示されます。終了するときは、画面右上の **X** をクリックします。



- もし、IPアドレス、サブネットマスクなどが正常に取得できていないようであれば、**すべて書き換え** ボタンをクリックします。
- IPアドレス自体が取得できない場合は、クライアントが正常にネットワークに接続されていないか、本製品のDHCPサーバ機能が「使用しない」に設定されているなどが原因として考えられます。

3 サポートサービスについて

Laneed

ラニード製品のサポートサービスについては、下記のラニード・サポートセンターへお電話またはFAXでご連絡ください。サポート情報、製品情報に関しては、FAX情報、インターネットでも提供しております。なお、サポートサービスを受けるためには、必ずユーザ登録をおこなってください。

●ラニード・サポートセンター

TEL : 03-3444-5571 FAX : 03-3444-8205

受付時間：月～金曜日 9:00～12:00 13:00～18:00
 (夏期・年末年始特定休業日、祝祭日は除きます)
 ※FAXによる受信は24時間おこなっております。

●インターネット

<http://www.elecom.co.jp>

●FAX情報サービス

最寄りのサービス情報BOXセンターにお電話ください。
 ガイドンスに従って取り出したい情報のBOX番号を指示してください。

メインメニューBOX番号(提供している情報の一覧がFAXされます)

5 5 9 9 0 0

電話番号

東京：03-3940-6000	大阪：06-6455-6000
名古屋：052-453-6000	福岡：092-482-6000
札幌：011-210-6000	仙台：022-268-6000
広島：082-223-6000	

●修理の依頼

本製品が故障した場合には、故障した製品と保証書に、故障状況を記入したものを添えてご連絡ください。

保証期間内

まずは、上記のラニード・サポートセンターまで電話またはFAXでご連絡ください。

保証期間外

東京都八王子市子安町3-5-2 セキエレクトロニクス株式会社内
 エレコム修理センター
 電話番号 0426-31-0271 FAX番号 0426-31-0272
 受付時間 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:00
 (ただし、祝祭日および夏期・年末年始特定休業日は除く)

●サポートセンターへお電話される前に

サポートセンターにお電話される前に次の事項を確認してください。

- ・このマニュアルのP73「2.こんなときは」をお読みになりましたか。まだ、お読みでない場合は、お電話の前にお読みください。
- ・システムを起動できる場合は、起動した状態でお電話ください。
- ・異常のある製品を取り付けたコンピュータの前から会話が可能場合は、コンピュータの前からお電話をおかけください。実際に操作しながらチェックできますので、解決しやすくなります。
- ・FAXを送られる場合は、付属の別紙「トラブルシート」に、できるだけ詳しい内容をご記入ください。

次のことをご確認ください。**●ネットワーク構成**

使用しているネットワークアダプタ:
 使用しているOS:
 使用しているコンピュータ本体(メーカーおよび型番):
 ネットワークを構成するコンピュータの台数とOSの構成:
 ネットワークを構成するその他の関連機器(HUB、ルータ等) :

●具体的な現象について

具体的な現象:
 事前にお客様が試みられた事項(あればお伝えください):

4基本仕様

Laneed

商品名	54/11Mbps無線LAN PCIボード	
製品型番	LD-WL5411/PCI	
規格	IEEE802.11a/IEEE802.3a/IEEE802.11b/ RCR STD-33 ARIB STD-66/STD-71	
周波数帯域	5.2GHz(5.15～5.25GHz) 2.4GHz(2.412～2.4835GHz)	
チャンネル数	5.2GHz: 34.38.42.46ch 2.4GHz: 1ch～14ch	
伝送方式	5.2GHz: OFDM方式 2.4GHz: DS-SS方式	
伝送速度	5.2GHz: 54/48/36/24/18/12/9/6Mbps 2.4GHz: 11/5.5/2/1Mbps	
伝送距離 (5.2GHz)	54Mbps(46m)/48Mbps(46m)/36Mbps(54m)/ 24Mbps(54m)/18Mbps(54m)/12Mbps(56m)/ 9Mbps(56m)/6Mbps(58m)	
伝送距離 (2.4GHz)	屋外: 11Mbps(73m)/5.5Mbps(79m)/2Mbps(79m)/ 1Mbps(80m)	
	屋内: 11Mbps(150m)/5.5Mbps(150m)/2Mbps(200m)/ 1Mbps(200m)	
アクセス方式	アドホック・モード インフラストラクチャ・モード(アクセスポイント使用時)	
アンテナ方式	ダイポールアンテナ	
セキュリティ	ESS ID, WEP 64ビット/128ビット	
ソフトウェア	専用ソフトウェア	
電源	電圧: DC5V 電流: 350mA	
消費電力	1.65W(最大)	
動作環境	動作温度: 0～50℃/動作湿度: 10～90%(結露なきこと)	
インターフェイス	PCI/バス	
形状寸法/重量	W65×D6×H121mm(本体組立時)/210g	
アンテナ ケーブル長	150cm	
対応機種	PC/AT互換機(DOS/Vマシン)およびNEC PC98-NXシリーズで PCI/バススロットを持つ機種(自作機は除く)	
対応OS	Windows XP, Windows Me, Windows 98, Windows 2000	
付属品	CD-ROMディスク(1枚)、ユーザーズマニュアル、保証書	

※伝送距離は環境により距離は変化します。また、5.2GHz帯は屋外での使用は電波法により禁じられています。

MEMO

54M/11Mbps 無線LANイーサネットPCIボード
LD-WL5411/PCI
ユーザーズマニュアル

発行 エレコム株式会社 2003年2月18日 第1版

©2003 ELECOM Corporation. All rights reserved.

Laneed

ELECOM